

2.10 私立入試合格発表 & 公立入試に向けて

今年度も残り1ヶ月を切りました。登校日数にすると残り18日ほどです。1, 2年生の皆さんは、進級の心構えは備わっているでしょうか？特に2年生の皆さんは、来年度は進路決定が控えています。多くの3年生から、「1, 2年生のうちにもっとしっかりやっておけばよかった…」という声をよく聞きます。次号は今年度最終号になりますが、3年生からの1, 2年生の皆さんに向けたメッセージを紹介したいと考えています。1, 2年生の皆さんは、自分の希望進路を実現するために、現段階でどのようなことを頑張るべきか、自分と向き合う時間をとってみましょう。

さて、2月10日（金）に、私立高校の合格発表が実施されました。本校で私立高校を受験した3年生は、全員見事に合格することができました。合格証書を喜ぶ手に喜ぶ3年生の皆さんの表情を見て、私たち根南中の教職員もとても嬉しい気持ちになりました。



私立高校合格証書授与の様子

ました。

しかし、3月2日（木）、3日（金）には公立入試が控えています。公立入試を控えている生徒はもちろん、私立単願で既に入試を終えている生徒も、3年生全員で学習に向かう良い雰囲気をつくり、公立入試へと向かっていきましょう。

1.26 佐野哲平先生による公開授業 ～1年6組社会の授業より～

1月26日（木）に、本校の研修の一環として、佐野哲平先生による公開授業が1年6組で実施されました。下の写真は、ICT機器を用いて生徒に資料を分かりやすく示す様子です。近年、日本のGDP（国内総生産）が伸び悩んでいるのに対し、アメリカのGDPは上昇を続けていることが、佐野先生が提示した資料から一目で分かります。インパクトのある資料に、ほとんどの生徒が、「なぜアメリカのGDPは伸び続けているのか？」という疑問をもちました。そのような生徒の思いから、「日本がアメリカ合衆国から見習うべきことはなんだろうか。」という学習課題を提示しました。ICT機器を有効に活用することによって、生徒が授業内で考察することを共有できている好例と言えます。



Chromebookを使用して、自分の意見を書き込んだり、友達の見解を把握したりする様子

上の写真は、単元で学んできたことを活かして、日本がアメリカのどのようなところを見習うべきか、反対に見習うべきでないところはどのような点か、chromebookを使用して、jamboardというアプリ上に各自の意見を書き込んでいる様子です。そうすることで、自分の意見を書き込みながら、他の生徒が書き込んでいる意見もリアルタイムで見ることができます。様々な場面で、子供たちはchromebookを上手に活用できるようになってきている一方で、友達と実際に話し合う時に、自分の意見を上手く伝えられない様子が見られることもあります。

自分の意見を明確に伝える力も、これから社会に出ていく上で必要な力です。子供たちの資質・能力を育成していくために、ICT機器を使うべき場面とそうでない場面についても、私たち教職員が一層研修を深めていきたいと思っています。



ICT機器を効果的に活用する様子

2.6 山梨大学准教授 三井 一希 先生による2回目のICT活用研修

研修だよりの9月号で、山梨大学准教授の三井一希先生をお招きし、ご講演とご指導をいただいたことをご紹介しましたが、2月6日に、再度三井先生をお招きし、ご講演とご指導をいただきました。

下の写真は、第5時の1、2年生の授業の様子を参観している様子です。本校では、「ICTを活用した家庭学習と授業の意味ある往還」をテーマの1つとして、本年度研修に取り組んできました。生徒の皆さんが、家庭でも授業の復習ができるように、授業で活用した資料を家庭でも閲覧できるようにしている教科が数多くあります。

しかし、2年生の英語の授業内で、家庭で資料を閲覧しているかどうか、生徒に聞いたところ、



三井先生による講演会の様子

その資料を活用できている生徒はあまり多くないようでした。生徒が家庭でも復習したり、予習したりできる環境を整えることに引き続き力を入れ、家庭学習と授業の意味ある往還を目指していきます。

放課後の講演会では、ICT機器の活用の仕方や、授業における教師の役割についてアドバイスをいただきました。研修だよりの11月号でもご紹介しましたが、生徒には自ら「主体的に学習に取り組む態度」が求められるようになってきています。本校の生徒が「自立した学習者」となるように、私たち教職員は、生徒の学びをサポートする「伴走者としての教師の役割」について、より研修を深めていきたいと思っています。



Chromebookを活用して話し合い活動を行う1年生の国語の授業の様子

ICT機器を活用できるスキルが十分に身に付いているか？

三井先生による講演会の中で、非常に興味深いデータが示されました。文部科学省が令和3年度に、全国の抽出された小・中学校・高等学校を対象に「情報活用能力調査」を実施しました。

右下の写真はその問題の一例ですが、「環境問題に関するウェブページに書かれている内容を、正確に読み取ることができるか」を問う問題です。落着いて資料を読み取れば、ほとんどの生徒が正答を選択できる難易度は高くない問題です。

しかし、調査の結果、高校生の正答率は73.0%、中学生の正答率は58.4%、小学生の正答率は31.5%という結果になったそうです。このことから、「必要な情報を収集・整理・分析・表現する力」が十分に身に付いていない児童生徒も数多くいることが見受けられます。

現代では、非常に数多くの情報が世の中に溢れています。現代人が1日に受け取る情報量は、平安時代に生きていた人の一生分との説もあります。その中で、自分に必要な情報を正しく集め、整理・分析

して、表現する力を、ICT機器を活用する場面だけでなく、授業や読書、家庭でニュースを見ている時など、さまざまな場面で身に付けていくことが大切になると考えられます。

調査問題例1

項目	内容
問題名	環境問題
問題の概要	環境問題に関するウェブページに書かれている内容を、正確に読み取ることができるかを問う。
情報活用能力の要素	必要な情報を収集・整理・分析・表現する力
解答形式	選択式
正答	1 と選択しているもの

校種	正答率
全体	52.8%
小学生	31.5%
中学生	58.4%
高校生	73.0%

※ 授業をめぐりに関する問題
データも掲載しているが、
全授業生徒の正答率ではない



出典：文部科学省 児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究
【情報活用能力調査(令和3年度実施)】～速報結果～

富士根南中学校ホームページのご紹介

本校のホームページでは、さまざまな情報や学校の様子を公開しています。

以下のURL、もしくはQRコードからご覧ください。

URL

<http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/jh-school/05fujineminami/>

